

第十章 鑛山變災 附暴動并同盟罷業

鑛山ニ於ケル變災ハ左表ニ掲クル如ク三十八年以來其回數并負傷者數ニ於テ甚シク增加ヲ示セリ殊ニ四十年中ニ於テハ其回數一萬三千百四十四回ニ上リ即死及負傷後死亡七百七十三名重傷百十八名輕傷一萬二千九百六十四名ヲ出スニ至レリ之ヲ前年ニ比較スルニ回數ニ於テ殆ント二倍ニ増加シ死傷者ニ於テハ死亡者ハ一分餘ノ增加ナルモ負傷者ハ二倍餘トナレリ

年	次	回	數	死	死	傷	人	員
三十一年	十三年	十四年	一七三	二一九	二一九	三〇六	四七七	七七
三十一年	十二年	十三年	三四四	三二八	三二八	三五八	五七七	七七
三十一年	十一年	十二年	四七二	三〇九	三〇九	五四六	八七四	六六
三十一年	二十年	二十一年	五四一	二六七	二六七	五六八	九五二	六六
三十一年	十九年	二十一年	九八五	三三一	三三一	九五二	三、四七九	五五二
三十一年	十八年	十九年	九八五	七六三	七六三	八七七	六、五一九	六、五一九
三十一年	十七年	十八年	九八五	七七三	七七三	一二一九	三、八一〇	三、八一〇
三十一年	十六年	十七年	九八五	六、六二〇	六、六二〇	八七七	七、二八二	七、二八二
三十一年	十五年	十六年	九八五	一三、一四四	一三、一四四	四七七	一三、八五五	一三、八五五

變災ノ多キハ石炭山ニシテ總變災回數ノ五割六分強、總死亡者ノ八割三分強ヲ占ム又變災原因中最

モ多キハ金屬山及石炭山トモ落盤ニシテ總回數ノ三割八分強總死亡者ノ二割三分強ヲ占メ坑車ニ
因ルモノ之ニ次キ總回數ノ一割三分弱ヲ占ム而シテ瓦斯爆發ニ因ルモノハ其回數僅ニ三十七回ナ
リシモ此ノ爲ニ死亡シタリシモノハ總死亡者ノ五割三分弱ヲ出シタリ

四十年中變災ノ最モ大ナリシハ七月二十日福岡縣豊國炭礦ニ於ケル瓦斯爆發ニシテ死亡者三百六十四名(總死亡者ノ四割七分強)ヲ出シ且ソ同年中ニ於テハ復舊工事完成セス稼行スルニ至ラサリシト四月十七日福岡縣忠隈炭礦ニ於ケル坑内火災ニシテ幸ヒ死傷者ハ出サ、リシモ漸ク十月中旬ニ

今金屬山、石炭山其他ノ非金屬山ニ區別シ就業者ニ對スル死亡者ノ割合ヲ示サンニ左ソ如シ

四	十	年	七三、七五	一三	一〇三、五八九	六四六	六〇六	七、五八二	一四	一〇四	一六七、九二二	七七三	四一一
---	---	---	-------	----	---------	-----	-----	-------	----	-----	---------	-----	-----

備考 四十年ニ於ケル就業人員ハ未詳ナルテ以テ假リニ前年ト同一ニ見做シ計算セリ
更ニ今世界各國ニ於ケル礦山就業者數災害ニ因ル死亡人員及ヒ其千分率ヲ掲クレハ左ノ如シ(明治三十八年即チ一九〇五年現在)

明治四十年中礦山變災表

備考 本表八一九〇七年英國政府鑛山土石一般報告及統計二依此

明治四十年中鑛山變災表

地

		地			
總 合	計	山屬金非		山屬金	
		屬金非ノ他其		石炭山	
		機爆其	機其	機其	機其
	計	裂	計	計	計
		他藥械	他械	他械	他械
一三、一四四	三、三九七	二〇二九一	二〇八	一八六三三	三、一六九五一〇
五三八	二	— —		- -	- - -
九〇	一七		三三	二〇〇四	- - -
一二四	一				
三一	二	二二	二二一	七五二	- - -
八一	三	三二			- - -
三七	一五	— —	六六	八五三	- - -
五、九五四	一三		七六	六六	- - -
七〇一〇	三、三五三	五五	一九六一七六二〇	五、一五二二、六七一五〇	- - -
六、六八七	一八	四三	七六一	七六一	三一八二、六七一五〇
七、一六八	三、三九六八	八八	二〇七	一一六二二	- - -

備考 本表ハ直接鑛業ニ起因スル變災ノミヲ計上セルモノニシテ小阪鑛山ニ於ケル水火災等ノ如キ天災ニ因ルモノハ之ヲ算入セス

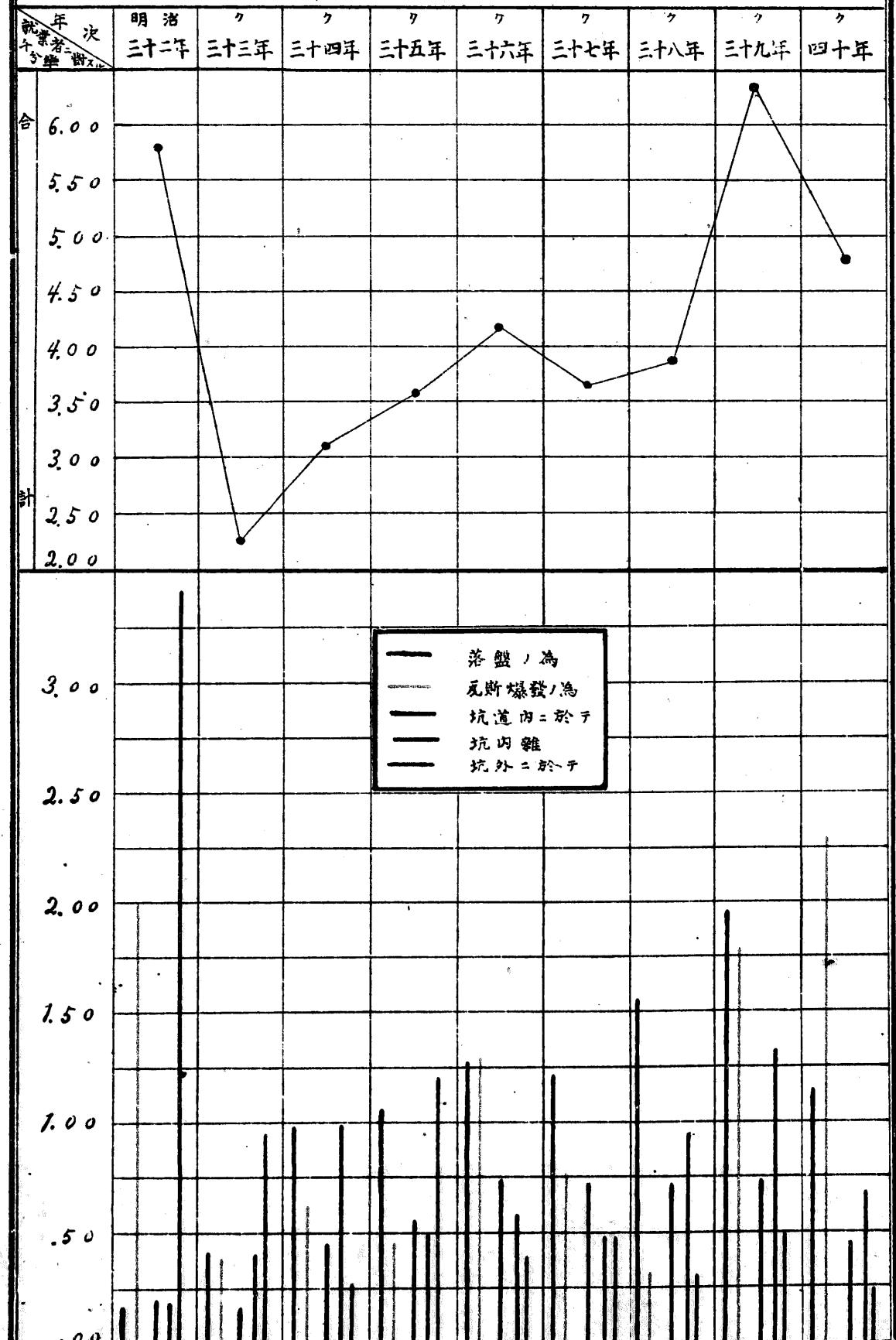
終リニ四十年鑛業ノ趨勢ヲ記述スルニ當リ特ニ鑛夫暴動ノ事實ヲ一言セサルヘカラサルハ甚タ遺憾トル所ナリ同年上半季ニ於テ一般鑛產物ノ市價暴騰ヲ呈シタル時ニ當リ恰カモ二月中足尾銅山四月中幌内炭山六月中別子銅山ニ於テ各々數日ニ亘ル三回ノ大暴動カ賃金値上ノ要求ノ下ニ爆破シタルハ輕々看過スヘカラサル事實ナリトス左ニ足尾幌内別子ノ三山ニ於ケルル暴動顛末ノ要點ヲ掲クヘシ

休 暴 主 暴 暴

足 尾 銅 山 崑 內 炭 山 別 子 銅 山	暴 主 暴 休 動 動 動 動 期 人 請 被 日	二月四日乃至六日 約千人 (本山及通洞坑夫)	四月二十九日及三十日 約二百人 (別子及東平賀夫、坑夫及支柱夫)	六月四日乃至六日 約千人 (別子及東平賀夫、坑夫及支柱夫)
暴 動 ノ 鎮 定 落 着	警官及軍隊派遣	通洞方面九日間 本山方面十日間 小瀧方面三日間	警造物破壞及放火	同 上
賃金値上發表 兇徒嘯聚罪被告九十二人	本山及通洞坑夫總員解傭ノ上内一千二百二十二人再傭出願チ許容	警官派遣	同 上	同 上
小通洞二月十三日本山 同月十五日	解傭者百五十六人	再就業	二日間	十二日間
五月一日	賃金値上ナシ	賃金値上ナシ	警官及軍隊派遣	警官及軍隊派遣
兇徒嘯聚罪被告三十五人	支柱夫坑夫賃夫總員解傭ノ上内千十五人再傭出願チ許容	解傭者九十八人	支柱夫坑夫賃夫總員解傭ノ上内千六十一人再傭出願チ許容	解傭者九十八人
六月十六日 (東平方面同月十七日)	賃金値上ナシ 兇徒嘯聚罪被告六十二人	六月十六日	六月十六日	六月十六日

右ノ如ク暴動ノ結果ハ營造物ノ燒失壞廢ト化シ數日若クハ十數日ノ休業ヲ爲サルヘカラサルニ至リ其損害獨リ鑛業主ノミニ止マラサルナリ而シテ斯カル暴動的罷業ノ影響トシテ屢々各地ノ鑛山ニ於テ賃金値上其他種々ナル口實ノ下ニ數多ノ同盟罷業ヲ見ルニ至リタルモ是等諸鑛山ニ於ケル同盟罷業ハ罷業日數一日若クハ兩三日ニ止マリ暴動狀態ヲ呈スルニ至ラスシテ落着セリ是等同盟罷業中最モ重大ナルモノハ夕張炭山ニ於テ五月一日數十名ノ罷業者アリ七月上旬三日間ニ亘リテ數百名ノ罷業者ヲ生シ續テ同月中旬五日ニ亘リテ遂ニ約千五百名ノ罷業者ヲ見ルニ至リタルノ事實ナリトス左ニ四十年中ニ生シタル重ナル鑛夫同盟罷業ヲ列記スヘシ

鑛山變災=於ケル即死并重傷者原因別累年比較



是等罷業ノ原因ヲ尋ヌルニ殆ント全部ハ主トシテ賃金値上ノ要求ニシテ労働時間ノ短縮安米其他日需品拂渡價格ノ低下、救恤方法ノ改良等時ニ附隨ノ原因ト爲リ中ニハ監督者労働者間ニ意思ノ疎通ヲ缺キ感情ノ齟齬却テ其主因ト爲レルカ如ク認メラル、モノナシトセス而シテ罷業ノ結果ハ全ク其目的ヲ達セサルカ或ハ僅カニ其一部ノ目的ヲ達シタルモノ大部ヲ占メ且ツ此等罷業ハ一日若クハ兩三日ノ日數ニ止リ相對又ハ罷業者ノ解僕ニ依リテ落着スルヲ得タリ

月別	所在地	回数	日數	人員
一月	鎌山名	一	一	約
二月	佐和去ノ	一	一	約
三月	生佐神宇大尾西夕三雨阿夕模幾鰯	一	一	約
四月	野須路見谷澤川張盛川仁張峯別	一	一	約
五月	兵長和茨京秋愛北同北秋北宮北秋	一	一	約
六月	歌海海海	一	一	約
七月	庫崎山城都田媛道道田道崎道田	一	一	約
八月		一	一	約
九月		一	一	約
十月		一	一	約
十一月		一	一	約
十二月		一	一	約
計		一六	一一	三三

明治四十一年三月廿六日印刷
明治四十一年三月廿九日發行

農商務省鑛山局編纂

東京市京橋區八官町十九番地

印發行人兼 小田泰男

東京市京橋區八官町十九番地

印刷所 忠愛社

電話新橋四百九十八番